



ふくしま教育ニュース

2018年7月 第50号 編集・発行 福島県教育委員会

学びのスタンダード

～子どもたちの資質・能力の育成を目指して～



【授業スタンダード】



【家庭学習スタンダード】

本県の教育政策の骨太の方針を示した「頑張る学校応援プラン」の主要施策1「学力向上に責任を果たす」の最重要施策が「学びのスタンダード」推進事業です。「授業スタンダード」と「家庭学習スタンダード」を基軸とし、授業の改善・校内研修や家庭学習の充実を図り、子どもたちの学力向上を目指します。

本事業2年目となる今年度は、県内14の推進地域が中心となり、日常的に教員同士が学び合う文化の構築や児童生徒の自己マネジメント力の向上に向けて取り組んでいます。



【グループでの話し合いで広がり深まる思考】

地域や学校の実態を踏まえた様々な工夫とともに、小学校における「教科担任制」や中学校における「タテ持ち」により、子どもたちの学び合いの活性化が図られるなどの成果がみられます。さらに、「ふくしま外国語教育推進リーダー」を配置し、小学校外国語教育にも力を入れ、児童生徒の夢の実現・ふくしまならではの真の学力の育成を目指し、しっかり取り組んでいきます。

避難指示解除等に伴い地元で学校が再開しました!



【なみえ創成小中学校開校式・入学式】

昨年の南相馬市小高区、楢葉町に続き、今年4月に飯舘村、川俣町山木屋地区、富岡町、浪江町、葛尾村の5つの町村において、小中学校が、地元で再開しました。葛尾村では、多くの村民が子どもたちを出迎えて再開式が行われ、出席した浜田復興副大臣から、「みなさんは、村の特産品である『凍み餅』を通して村のよさや伝統を広めようと学習を進めてられました。これからたくさんの体験をして、自分らしく成長してください。」と温かい言葉がありました。飯舘村の開校式では、鈴木教育長から、「広いお庭や屋根付きのプールもあり、どんな生活ができるかわくわくしますね。」と楽しい学校生活への期待が述べられ、「本県はもとより、日本の、そして世界の将来を担う人材として羽ばたいていくことを心から期待します。」と励ましの言葉がありました。

福島県教育委員会では、避難地域12市町村のそれぞれの実情に応じて引き続き支援してまいります。



【葛尾村の幼稚園・小中学校再開式】

福島イノベーション・コースト構想 を担う人材の育成について



平工業高校
企業見学(5/28)

改正福島復興再生特別措置法に位置づけられた「福島イノベーション・コースト構想」の実現を担う人材育成のため、平成30年度より、浜通り地域等の高等学校において、各校の特色や地域の企業等と連携した新たな教育プログラムを実施しています。

【主な教育プログラム】

【目指す人材像】

トップリーダーの育成

磐城高等学校
相馬高等学校
原町高等学校

企業や大学及び研究施設訪問による最先端分野の学習、ICT機器を活用したフィールドワーク、英語によるプレゼンスキルの強化、など

新たな産業の創出・集積に資する研究者や経営者・起業家等、トップリーダーとして地域・日本、国際社会で活躍できる人材

農業人材の育成

磐城農業高等学校
相馬農業高等学校

ドローンを活用した測量技術の向上、先進植物工場及び研究施設の見学、6次産業化における販売戦略学習、農業実習、など

6次産業化や先進技術の活用、販売・経営力の向上など、地域でイノベティブな農業を展開できる人材

工業人材の育成

平工業高等学校
勿来工業高等学校
川俣高等学校

再生可能エネルギーやロボット研究に関する講義・実習と企業・施設見学、地元企業による技術指導、情報発信力の向上、など

専門的知見を有し、再生可能エネルギーやロボットなど、新たな産業を担う高い資質を持った人材

※教育プログラムは各校異なります。

先行して取り組んでいる県立高等学校

ふたば未来学園高等学校は、アクティブ・ラーニングによるグローバルリーダーの育成、小高産業技術高等学校は学科改編による先端技術学習と地域探究により地域の復興人材の育成に向けた教育プログラムを展開。

キックオフセミナー開催!

4月下旬より、今年度実施校のうち、農業高等学校を除く6校において、福島大学 小沢喜仁 教授、福島再生可能エネルギー研究所 大河原薫 氏による「キックオフセミナー」を開催しました。

小沢教授によるセミナーでは、2061年未来の福島の姿を描いた動画の視聴後、『地域から生まれる「新しいコト」が未来を創る—福島イノベーション・コースト構想が目指すこととは—』をテーマにご講演いただきました。参加した生徒、教員、保護者、自治体関係者は、福島の復興の現状や地理的・歴史的課題を踏まえ、技術革新に至るプロセスやベンチャー型企業と地方創生の関わりについて考えを深めることが出来ました。

講演後の質疑では、生徒から「開発型企業の役割」や「ロボットテストフィールドの状況」などの質問が出され、参加者は友人の意見や小沢教授の話に熱心に聴き入っていました。

各校では、今後も企業や研究施設、各関係機関と連携し、本構想をけん引する人材の育成を進めてまいります。



福島大学 小沢教授



磐城高校におけるセミナー
(5/1)

【生徒アンケートより】

- 「自分の専門の幹」を創り、地域のため、自分のために興味が湧いた仕事で一生懸命働きたい。それが地域の発展につながると思う。
- 原発の問題に直接は関われないかもしれないが、それに関わる人、被災者、これからの福島を担う人々が健康に暮らせるよう支えていきたい。
- 自分が産業の発展に何かを発案することはとても難しい事だと思うが、「未来」につなげるために「伝える」ことはできる。小さいことでも貢献したい。
- 今第一に必要なのは原発事故の被害を取り除き、人々に活気を与えること。放射性物質の無害化に関する研究をしたい。

新しい県立高等学校改革基本計画を策定しました

～ふくしまの未来を切り拓く人づくりのための魅力ある県立高等学校を目指して～

少子化や過疎化の進行など、社会が急激に変化する中で、生徒の学習ニーズの多様化、学習指導要領改訂に伴う新しい学びへの対応など、高等学校を取り巻く状況も大きく変化しています。

福島県教育委員会では、昨年6月の福島県学校教育審議会の答申を踏まえるとともに、県内7地区での教育公聴会や県民意見公募など県民の皆さんからの意見も参考にして、今後10年間の県立高等学校の在り方を示した県立高等学校改革基本計画を、今年5月に策定しました。

今後も県立高等学校の教育の質的向上と、魅力と活力ある学校づくりを進め、本県の未来を切り拓く人づくりを推進していきます。



教育公聴会では、これからの県立高等学校の在り方について中高生からも多くの意見が出されました。

基本方針

1

社会の変化に的確に対応できる生き抜く力を育む 高等学校教育の推進

大きく変化する社会の中で生き抜くために、「確かな学力」「豊かなこころ」「健やかな体」をバランスよく育て、自立した人間として他者と協働しながら創造的に生きる力を育成します。「主体的・対話的で深い学び」への授業改善を図り、生徒の進路実現のために必要な学力や資質を向上させる取組を充実させます。

また、様々な課題に主体的・積極的に取り組み、高い志やチャレンジ精神を持った「ふくしまの未来を担う人づくり」を進めていきます。

さらに、学校と地域が連携し、地域と共に地域を支える人づくりを推進します。

基本方針

2

多様な学習内容の確保 及び教育の質の向上

生徒の興味・関心、進路希望等も多様化し、様々な問題を抱える生徒や特別な支援を要する生徒への配慮も必要になっています。

そこで、学び直しの機会確保や高等学校における特別支援教育の推進、学びのセーフティネットの充実などを進めていきます。

また、これまで県内で進めてきた連携型及び併設型中高一貫教育の充実を図ります。

さらに、新しい学びや教育の今日的な課題に対応できるよう教員の資質向上を図り、教員同士が学び合う機会や校内体制を充実させます。

県立高等学校改革基本計画(2019年度～2028年度)

4つの基本方針

基本方針

3

学校の再編整備・特色化による 教育活動の魅力化

本県では生徒数の減少が進み、平成30年度に生徒募集した全日制高等学校(分校を含む)のうち、1学年3学級以下の小規模校が約38%を占めています。一定の集団規模を確保しつつ、生徒と教員が継続した人間関係を保ち、丁寧に指導が行われるよう、望ましい学校の規模を1学年4～6学級に見直し、各地区の状況や学科のバランスにも配慮しながら、計画的に再編整備を進めていきます。

また、中学生が進路希望や学びのニーズに応じて高等学校を選択できるように、各校が特色化を図るとともに積極的な情報発信をしていきます。

基本方針

4

過疎・中山間地域の学習機会 の確保と教育環境の向上

過疎・中山間地域の生徒の学習機会の確保のために、近隣の高等学校への通学が極端に困難になるなど特別な事情がある場合には、1学年1学級規模の本校化などを例外的に実施し、地域の協力のもと教育環境の向上を図ります。

県立高等学校の具体的な方向性や各校の在り方については、5年間で運用期間とする**県立高等学校改革実施計画(前期・後期)**を策定し、示してまいります。

福島県 県立高等学校改革計画

検索

夏休みの主なコンテスト・イベント等

ふくしまっ子ごはんコンテスト

～自分の朝食や食習慣を見直してみませんか～

献立の作成や食材の準備、調理等、ごはんを主食とした一連の食事作りを通して、生活習慣の改善や朝食摂取を基本とした望ましい食習慣の形成を図るとともに、自ら健全な食生活を実践する力(食べる力)の育成を図ることを目的に実施します。小学生は朝食作り、中学生は弁当作りを実践する機会として、みなさんのアイデアあふれる献立を応募してください。

応募期間 平成30年7月2日(月)～8月30日(木)

最終実技審査 平成30年10月14日(日)
福島県学校給食会(福島市松川)

応募先 各教育事務所学校教育課まで

*詳しくは学校を通してお知らせします。



平成29年度小学校上学年の部 最優秀賞作品
「野さいを食べて暑い夏を乗りきるうごはん」



平成29年度中学校の部 最優秀賞作品
「ほっさいと季節野菜の弁当」

平成30年度
中学生・高校生の科学・技術研究論文

「野口英世賞」募集

科学する心の育成を図り、明日の社会の発展を担う優れた人材を育成するため、科学及び技術に関するテーマに基づく研究論文を募集します。

平成30年度
中学生・高校生の国際理解・国際交流論文

「朝河貫一賞」募集

国際性豊かな人材の育成を目指して、国際社会における在り方・生き方等についての論文を募集します。

募集対象 県内の中学校(含む中学部)・高等学校(含む高等部)の生徒
※中学校には、義務教育学校後期課程を含みます。

募集期間 平成30年9月3日(月)～9月11日(火)(必着)

朝河貫一博士没後70年記念シンポジウム

～ふくしまが生んだ偉人の功績を語る～

今年、没後70年を迎える本県出身の国際的歴史学者朝河貫一博士の偉大な功績を、主に中高生を対象に広く周知いたします。シンポジウムとおして、福島の復興の担い手となる子どもたちの生き抜く力や志を培うことを目的としています。

日時 平成30年8月11日(土) [博士の命日] 13:00～16:15

場所 とうほう・みんなの文化センター(県文化センター)

内容 基調講演、海外研修の体験発表、パネルディスカッション

*事前申込が必要です。



夜間中学を知っていますか

夜の時間に学ぶ中学校、それが夜間中学です。

「わかったらうれしい」「できたらたのしい」学ぶ喜びは今からでも味わえます。夜間中学で「学びたい」という声を、「学びたい」という思いをぜひお寄せください。福島県教育委員会では、希望状況の調査を行っています。詳しくは、

ふくしま子どもLINE相談

児童生徒を対象にLINEを活用した相談窓口を開設しました。児童生徒の皆さんの不安や悩みをLINEで相談することができます。相談員は臨床心理士等の資格を持った専門家です。

◇相談受付時間：毎日17:00～21:00

各学校から配付されたQRコードを読み取り、相談受付時間を確認して相談してください。



相談窓口のお知らせ

いじめ、不登校、体罰などの様々なお悩みに対する相談窓口を開設しています。ひとりで悩まず、お電話ください。

悩みを抱えているお子さんや保護者の方々が対象です。

〈いじめ問題や不登校、体罰などの教育相談電話〉月～金 10:00～17:00

「ダイヤルSOS」

0120-453-141

〈子どものための24時間電話相談〉24時間いつでも電話できます。

「ふくしま24時間子どもSOS」

0120-916-024

*福島県教育委員会ではHP等の掲載広告を募集しています。詳しくは

ここから下の段は広告です。掲載の広告は県教育委員会の事業とは関係ありません。

こども1型

月掛金 **1,000円**

お申し込みは **0歳～満17歳**の健康なお子様

保障期間は **0歳～18歳**まで

入院は **1日目から保障**

1日当たり **5,000円**

ケガの通院も **1日目から保障**

1日当たり **2,000円**

第三者への **損害賠償**

1事故につき **100万円**
(1,000円は自己負担)

その他にも **がん診断、手術、先進医療、後遺障害、死亡、犯罪被害死亡、契約者の死亡も保障。**

ここでは制度の概要を記載しています。くわしい保障内容については県民共済までお問い合わせください。



助けあいの心から生まれた保障

県民共済

お問い合わせと資料のご請求は

共済取扱団体 福島県認可 **福島県民共済生活協同組合**
〒960-8031 福島市栄町6-6 NBFユニクスビル9F

☎ **0120-282-869**

FAX 024(524)1400

【受付時間】平日 9:00～17:00

共済元受団体/厚生労働省認可 全国生活協同組合連合会